

E 27 兼業農家におけるライフサイクルの変動 長野県諏訪市田辺の事例より  
 お茶の水女大家政 湯沢隆彦 ○中野洋鬼

〈目的〉資本主義の発達、医療の進歩、思想  
 の他様々な変化に伴って変容してきた兼業  
 農家の家族周期（ファミリーライフサイクル）  
 を明確にすることを目的とする。

〈方法〉長野県諏訪市田辺地域における1954  
 、1962、1979年の世帯調査票と個別面接調査  
 から、それぞれ時点について兼業農家家族  
 の類型、すなわち“戦前型”、“戦後型”、“現  
 代型”を明らかにし比較検討を行う。

〈結果〉“現代型”家族においては、①3世  
 代居住期間が長期化していること、②“食  
 の峠”といわれた家庭経済の危機期間がほと  
 んど存在しなくなったこと、③世帯主夫婦は  
 農業労働に、あとつぎ夫婦は他産業に従事し  
 ていて世代間は分離していること、④家族員  
 数の増減は少なくなり、それとともにきわめ  
 て安定した家族として存在するようになった  
 ことなどが実証されたのである。

